

なまで001
emoria®



顔語り

佐藤 知樹

Nice Face

文政12年（1815年）、初代佐藤勘吉が母屋で開いた荒物と餅貝
雜貨の店「勘吉屋」は、株「ごきや」なり。母年で創業200周年を
迎えた。そんなエピソードの今夏、八代目の社長に就任した佐藤
知樹さんは、葬祭業を営む家で男4人兄弟の次男として生まれた。自
宅兼店舗という環境も手伝ってか、賑やかな家庭で育ちました。上
の兄は幼い頃から学究肌でしたが私は社会的なタイプで、子どもの
頃から花輪運びなど店の簡単な手伝いも喜んでやっていたようです。
小学生の時は野球、中学の途中から高校活動はバンド活動に傾し
ました。母親に卒業後必ず戻って来るという約束をして首都圏の大
学へ進みましたが、殆どの時間を学校での勉強よりも予備校での英
語講師と、葬祭社でのアルバイトに費やすこととなりました。学生
時代に他業への仕事や、同業他社の現場を経験できたことは、今振
り返ってみれば大きな財産であったと感じています。

卒業後は実家へと戻り、株「ごきや」に入社。「上の兄が事業継承
しないことは周知でしたが、父親から後継を要望されたこともあり
ませんでした。企画営業に配属され、当時はホームページの作成やシス
テム導入の仕事を担当しました。営業や役員となつてからは社内の
仕事の他、社外での社会貢献活動にも積極的に携わるようになり
ました。特に青年会議所（JCC）では宮城ブロックの会長を務めた年
に東日本大震災が発生し、2ヶ月間ほど、県庁と物資倉庫を往復し
ながら仕事を果たしましたが、JCCの全国の友人らとの
パイ役を果たせたことで、国内に人脈の幅が大きく広がりました」

さとう ともしき 株式会社ごきや代表取締役社長
1975年、宮城県仙台市・田原市に生まれ、東海大学文学部日本文学
学卒業、2000年、株式会社ごきや入社、01年、取締役・宮城支店長
04年、専務取締役、15年7月、代表取締役社長に就任。日本JCC監事、
全日本葬祭協同組合連合会青年部会役員、宮城県法人会青年部会連合
会副会長を現職。

葬祭業界は葬祭館の普及を契機に、近年はハードからソフト重
視の傾向が次第に強まっている。そんな過渡期での社長就任となった。
「就任後4ヶ月が経過しましたが、仕事の量は専務時代と比べると3
倍はなりましたね（笑）。従業員とその家族の生活を背負うという
責任は重いと感じていますが、私も死を通過して取り戻す環境の
変化は確かに感じています。私どもは、死を通じて業界実感をす。
これは創業以来続けてきた葬文化継承のスタンスを変えろことは
ありません。少子高齢化の進行ともない、20年後には業界自体が
縮小傾向へ移行することも予測されていますが、2000年以上続け
てきた本業だからこそ継続したいという思いは強くあります。その
為には、本質的に変わらない為に変化する。ことが必要で、当社がビジョ
ンとして掲げる地域にいちばん「ありがと」をいだける企業を目
指して、お客様の為になることは何でも行う姿勢を貫きたいと思っ
ています」

趣味は料理と子育てという佐藤さんに、りく読者へのメッセージ
を頂いた。最近終活というワードが聞かえるようになっていますが、
これは死というものを考えることの第一と捉え、これから先の自分
の生をどう生きるかを考えるという活動です。弊社では定期的な終
活に関するセミナーも開催しておりますので、弊社にお気持ちに余裕
がある時には是非ご参加いただければと思います。100年前から本
業をお客様と自然体で交際する佐藤さんの日常に、江戸時代から本業
を継ぐする取力を垣間見た。

インタビュアー/安達昌宏 撮影/鈴木江美